

## 久賀ニーズ調査報告書

調査対象：久賀島在住65歳以上の高齢者177名のうち無作為抽出

調査期間：令和2年9月25日～令和2年11月19日（6回）

調査地区：久賀島（久賀・市小木・大開・外上平・蕨・猪之木・田ノ浦）

調査方法：個人宅訪問聞き取り

調査員：4名

### （久賀島の特徴）

久賀島は福江島北側にある有人島（面積37.35km<sup>2</sup>）で令和2年9月末に191世帯308人の住人が生活している。（住民記録より）

島の特徴として、標高は低いものの急勾配斜面の山が複数あり、裾野が海岸線まで到達し平地は少ない。地理的特徴により各地区間に距離があり、島内移動手段は主に車であり、月・金・土曜日のみ島内バス運行、その他タクシーがある。島外へは連絡船やフェリーで連絡する。

歴史的に潜伏キリシタン関連をはじめ、遣唐使の寄港や平家の落人の言い伝えなどが残る島である。

### （背景）

久賀島の高齢化率は約57.5%で65歳以上の高齢者は177名である。

今後さらに高齢化が進み、五島市において二次離島となる久賀島の高齢者サービスはデイサービス、配食ヘルパーがあるが、入居施設は存在せず高度認知症など独居での生活を行う上で問題が出てくると島内で生活することが難しく、福江島の高齢者福祉施設や島外に出ていかなければいけない現状があり、高齢化に伴う見守りや居場所作りが必要になると考える。

そこで、島内高齢者へ困りごとや不安を聞き取ることにより認知症カフェをはじめとする必要なサービスを検討していく。

### （方法）

久賀島島内居住の65歳以上の高齢者を対象に聞き取り調査を行う。

### （調査年代詳細）

調査は65歳以上を対象に各地区で行った。

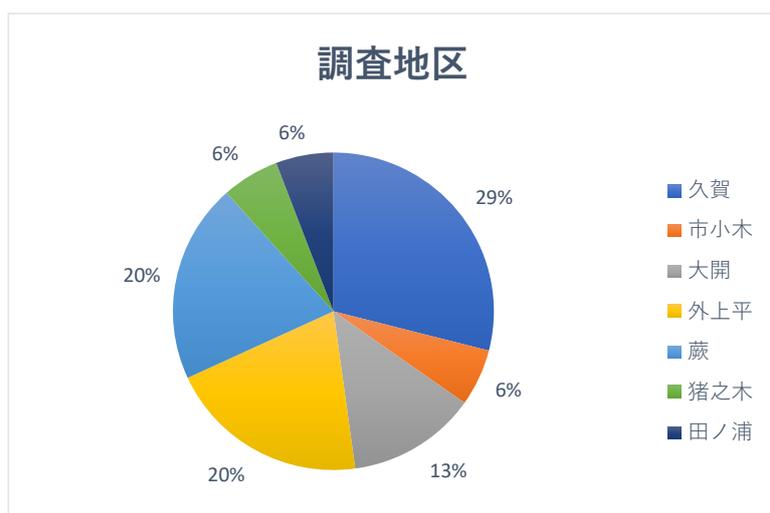
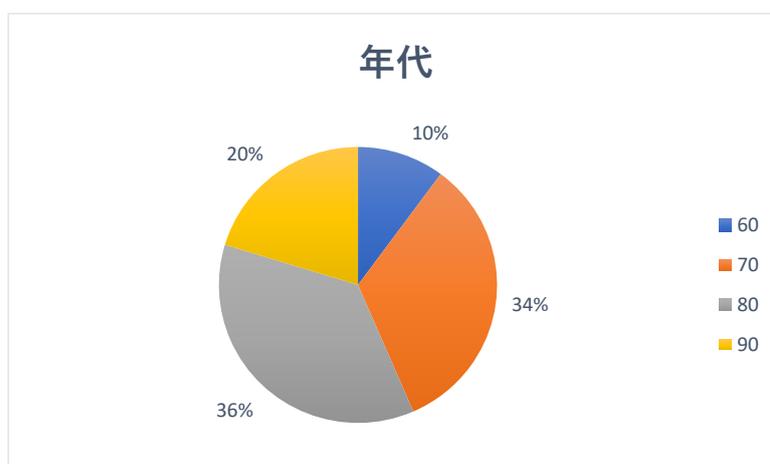
詳細としては以下のとおりである。

## 1. 基本情報

(単位：人)

地区	60代	70代	80代	90以上	計
久賀	2	6	7	5	20
市小木	2	0	1	1	4
大開	1	1	3	4	9
外上平	0	7	6	1	14
蕨	1	6	6	1	14
猪之木	0	1	2	1	4
田ノ浦	1	2	0	1	4
計	7	23	25	14	69

地区総人口177人



今回 65 歳以上の高齢者 69 人より聞き取りを行い、困りごとやニーズの統計を取った。訪問する中で、転居や空き家などで会うことができない対象者もあり、結果として約 38.9% の聞き取り調査を行った。

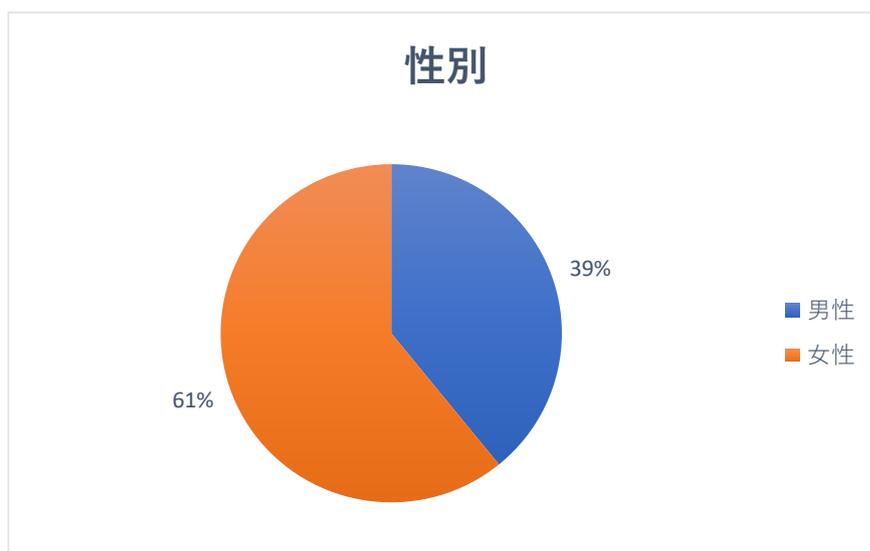
ニーズ調査を行う上で以下のような意見を聞き取ることができた。

(性別)

(単位:人)

性別	60代	70代	80代	90代	計
男	4	10	8	5	27
女	3	13	17	9	42
計	7	23	25	14	69

地区総人口177人



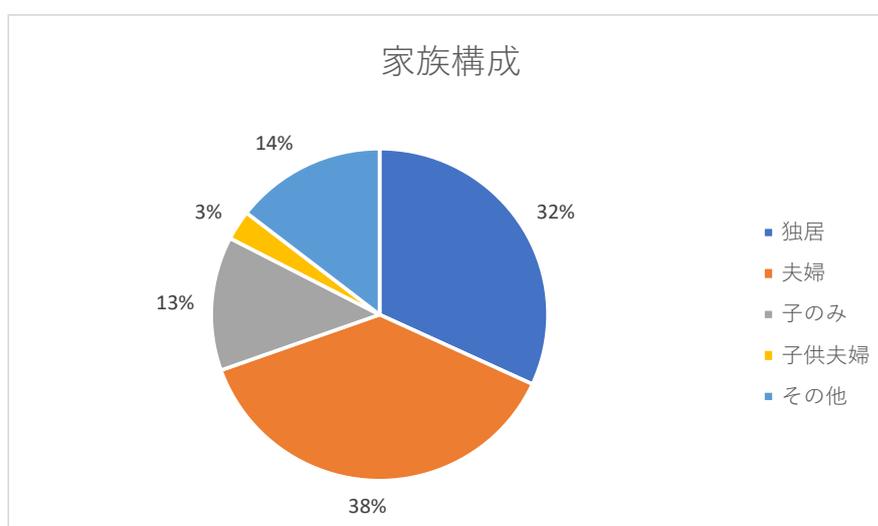
聞き取りにおける男女比は男性39%、女性61%であった。

(家族構成)

(単位:人)

家族構成	60代	70代	80代	90代	計
独居世帯	1	7	9	5	22
高齢者夫婦世帯	4	10	9	3	26
子のみ同居世帯	0	1	4	4	9
子供夫婦同居世帯	0	0	1	1	2
その他	2	5	2	1	10
計	7	23	25	14	69

地区総人口177人



家族構成において、一番割合が大きいものは夫婦世帯で次いで独居世帯が多くなっている。

その他は兄弟や親類と同居しているという意見が多く、独居世帯は38%となっており誰かしらと住んでいる方62%と全体のが3分の2を占めていた。

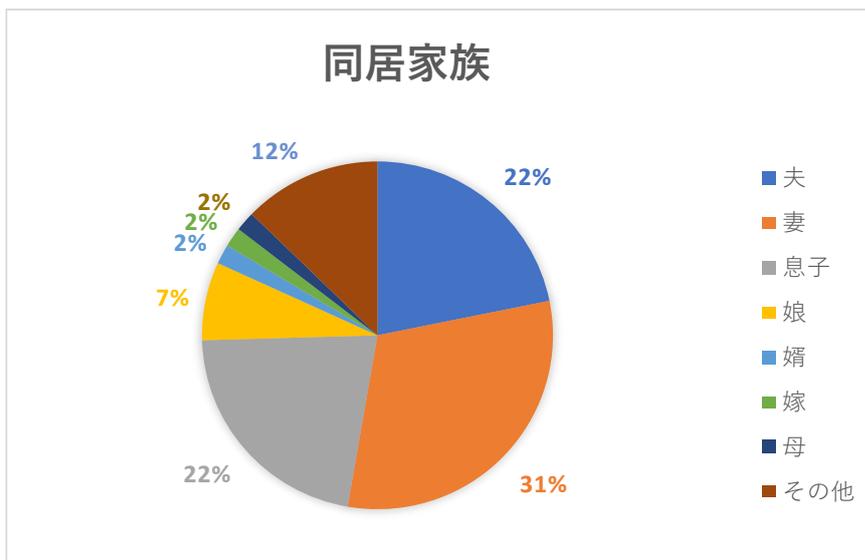
独居世帯が多かったのは80代であり、独居世帯の約半数を占めている。次いで70代が多い。

(同居続柄)

(単位:人)

同居続柄	60代	70代	80代	90代	計
夫	2	5	4	1	12
妻	3	5	6	3	17
息子	0	1	7	4	12
娘	0	0	2	2	4
婿	0	0	0	1	1
嫁	0	0	1	0	1
母	1	0	0	0	1
その他	0	6	1	0	7
計	6	17	21	11	55

地区総人口 177人



独居を除く 47人の同居家族で最も多いのは妻で、次いで夫・息子となっている。

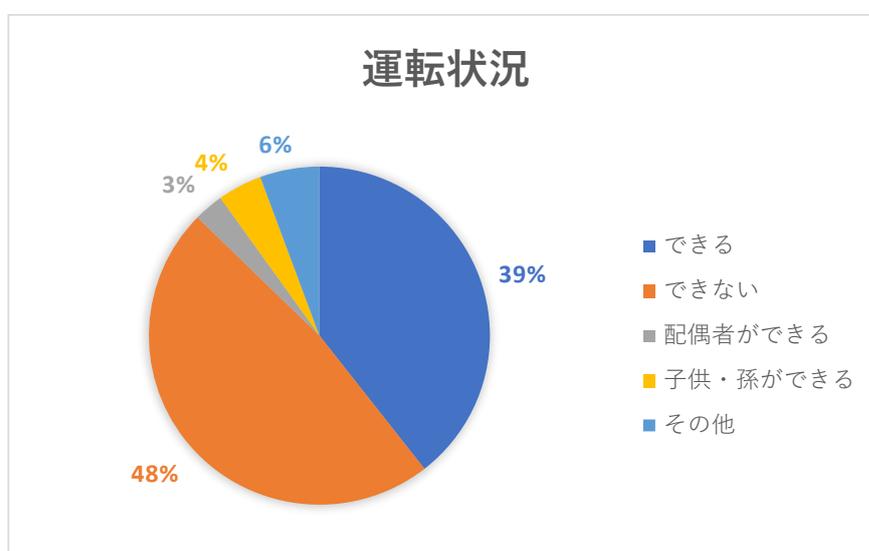
息子、娘と同居している年齢層は 80代・90代に多い。その他の内約については弟やいとこなどの親族との同居であり、70代に多く見られた。

(運転)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
できる	4	13	8	3	28
できない	3	8	13	10	34
配偶者ができる	0	0	2	0	2
子供、孫ができる	0	1	2	0	3
その他	0	1	2	1	4
計	7	23	27	14	71

複数回答可



車やバイクなど、運転の状況を聞き取ると、約半数の48%ができないと答えた。

中でも80代・90代に運転ができない人が多く、中にはセニアカーを利用し移動されているという意見も見られた。

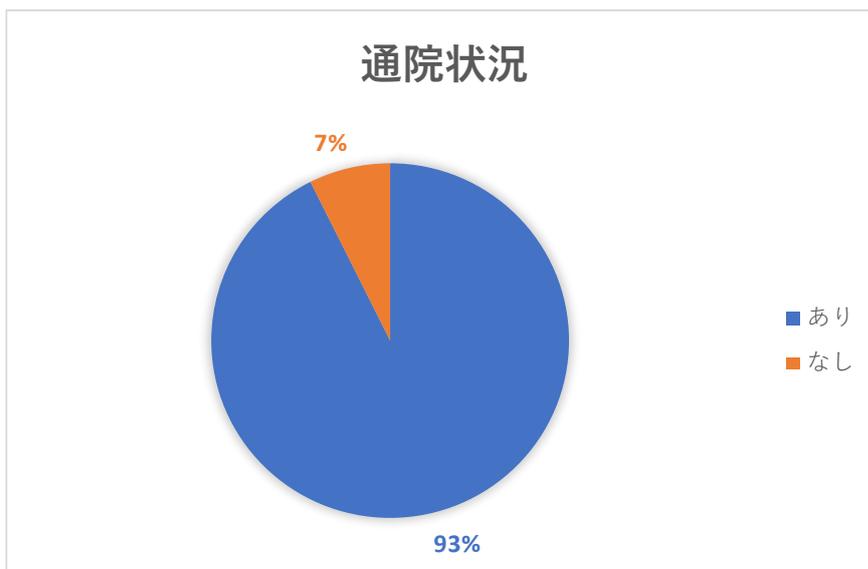
## 2. 通院・買い物状況

(通院状況)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
あり	4	21	25	13	63
なし	3	1	0	1	5
計	7	22	25	14	68

地区総人口 177人



通院状況を見ていると、全年齢を通して何かしらの症状で通院をされており 93%の人が病院受診していると答えた。

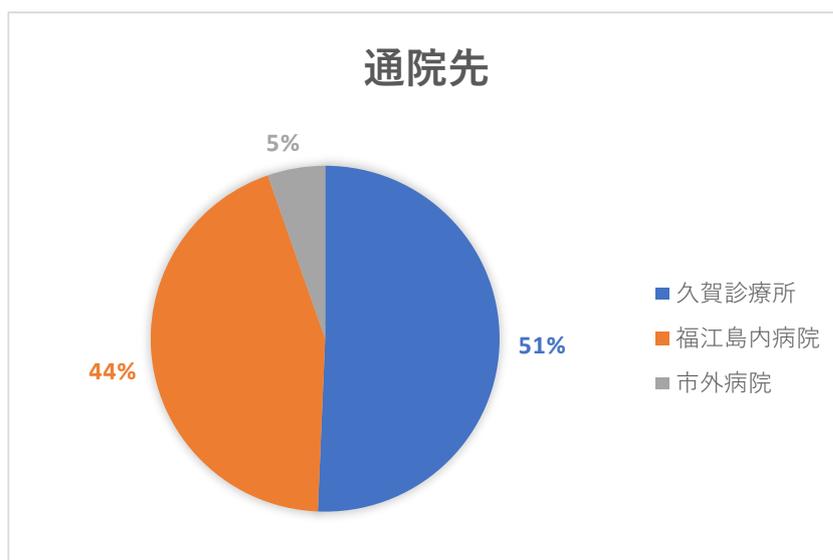
さらに、80代に関してはすべての人が通院状況にあると答えた。

(通院先)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
久賀診療所	2	12	14	10	38
福江島内病院	2	10	16	5	33
市外病院	1	1	2	0	4
計	5	23	32	15	75

複数回答可



通院先の聞き取りでは、半数の人が久賀診療所を利用していることが分かった。

次いで福江島内の病院へ通院しているという意見が多かった。

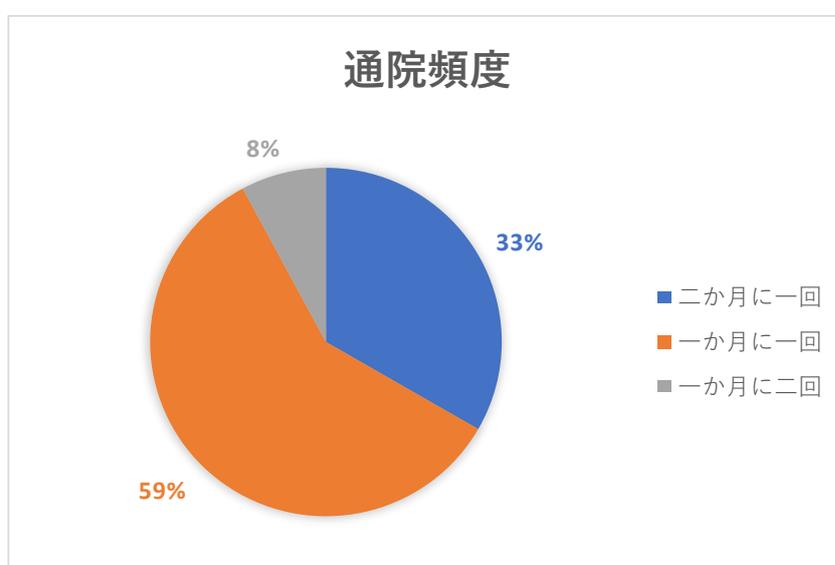
市外の病院へ約5%の人が通院しており、ほとんどの人が五島市内で通院されていることが分かった。

(通院頻度)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
2か月に1回	1	5	11	0	17
1か月に1回	1	15	3	11	30
1か月に2回	1	1	1	1	4
週1～2回	0	0	0	0	0
毎日	0	0	0	0	0
計	3	21	15	12	51

地区総人口177人



通院頻度に関して、全体を通して1か月に1回受診している方が59%おり、年代別に見てみると80代が2か月に1回、70代及び90代が1か月に1回の受診が多いと答えたことが分かった。

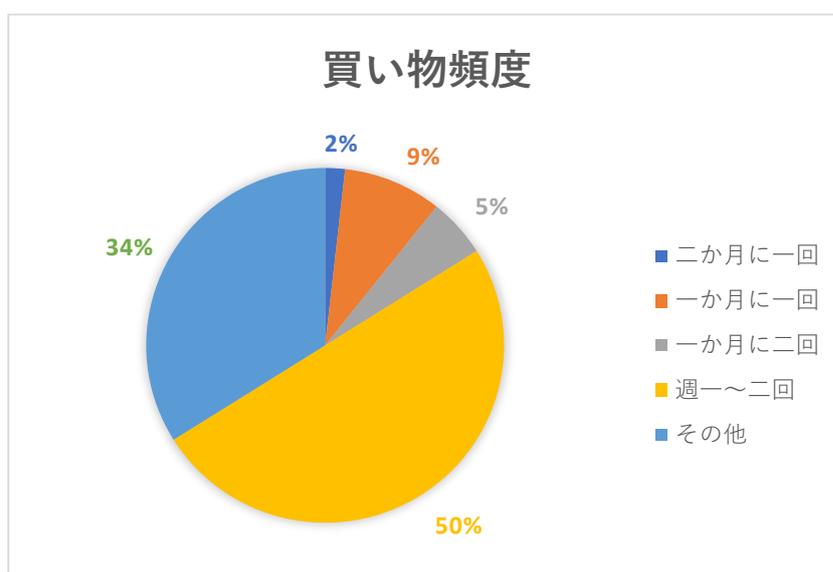
次いで2か月に1回の受診が多い。1か月に2回通院していると答えた人が8%いた。

(買い物頻度)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
2か月に1回	0	1	0	0	1
1か月に1回	1	3	1	0	5
1か月に2回	1	0	1	1	3
週1～2回	1	15	10	2	28
毎日	0	0	0	0	0
その他	1	2	6	10	19
計	4	21	18	13	56

地区総人口177人



買い物の頻度は、週1～2回行くという意見が50%あり、次いでその他という意見が34%であった。

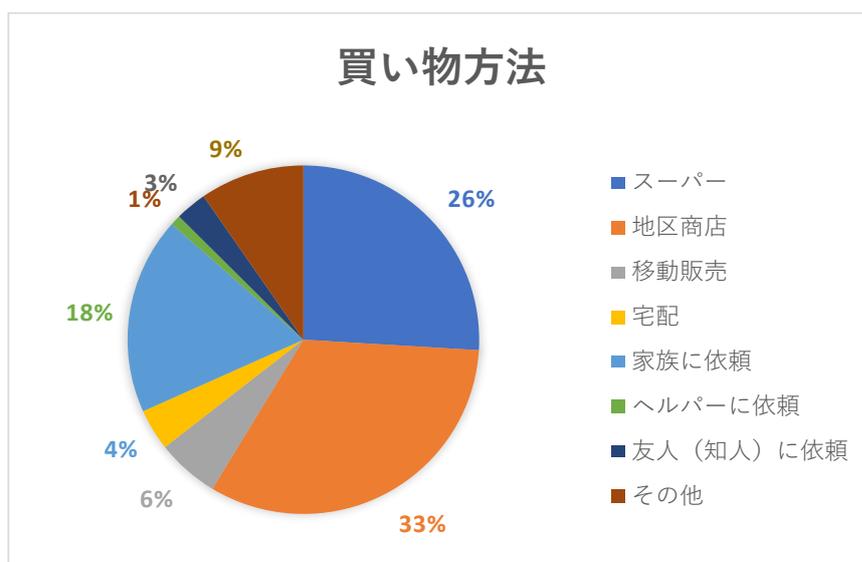
その他の内約は不定期、病院受診時に購入する、家族からの宅配など生活スタイルに合った頻度であると答えがあった。

(買い物方法)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
スーパー	2	14	9	2	27
地区商店	4	10	13	7	34
移動販売	0	0	4	2	6
地区商店の配達	0	0	0	0	0
宅配	1	0	3	0	4
家族に依頼	0	5	6	6	17
デイサービスで依頼	0	0	0	0	0
ヘルパーに依頼	0	0	0	1	1
友人(知人)に依頼	0	0	3	0	3
その他	0	0	2	10	12
計	7	29	40	28	104

複数回答可



買い物方法では約 3 割が久賀島内の地区商店での買い物を行っており、次いで福江のスーパーで買い物をしているという意見が多く上がった。

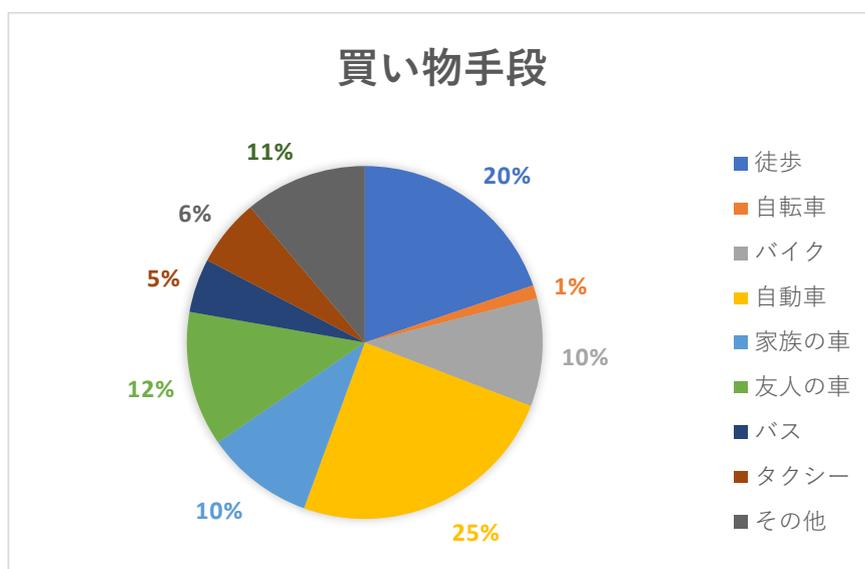
家族に依頼しているという意見も 18%みられた。

(買い物手段)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
徒歩	3	1	8	4	16
自転車	0	0	1	0	1
バイク	0	4	4	0	8
自車	3	12	3	2	20
家族の車	0	2	3	3	8
友人の車	1	2	4	3	10
乗り合わせ	0	0	0	0	0
バス	0	2	2	0	4
タクシー	0	3	1	1	5
福祉サービス	0	0	0	0	0
知人の車(有償)	0	0	0	0	0
その他	1	0	4	4	9
計	8	26	30	17	81

複数回答可



買い物手段としては、自家用車での買い物をするという意見が最も多く、次いで徒歩という意見が多かった。

また70代~90代で家族や友人の車で買い物に行くという人が一定数見られた。

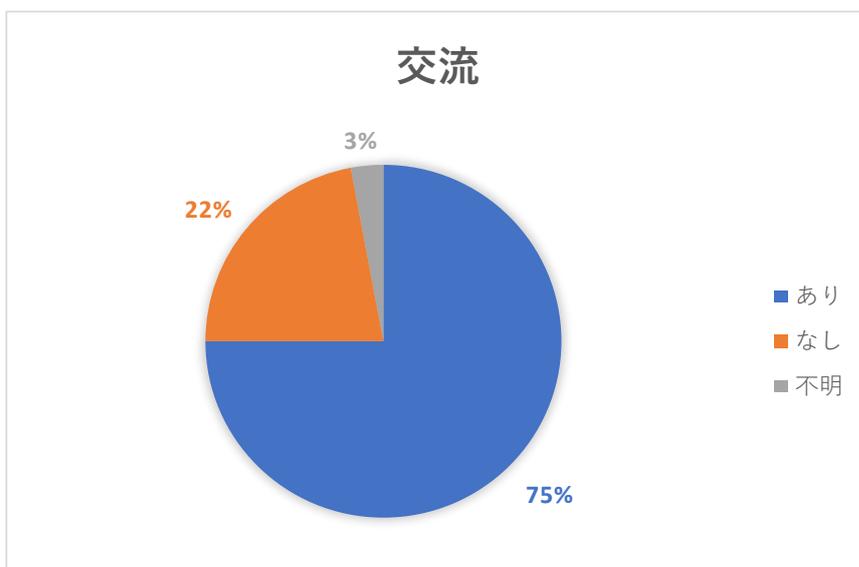
### 3. 交流状況

(住民の交流)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
あり	4	17	20	10	51
なし	1	5	5	4	15
不明	2	0	0	0	2
計	7	22	25	14	68

地区総人口177人



住民の交流に関しては、住民同士の交流があるという意見が75%で、ほとんどの人が何らかの交流をしていることが分かった。

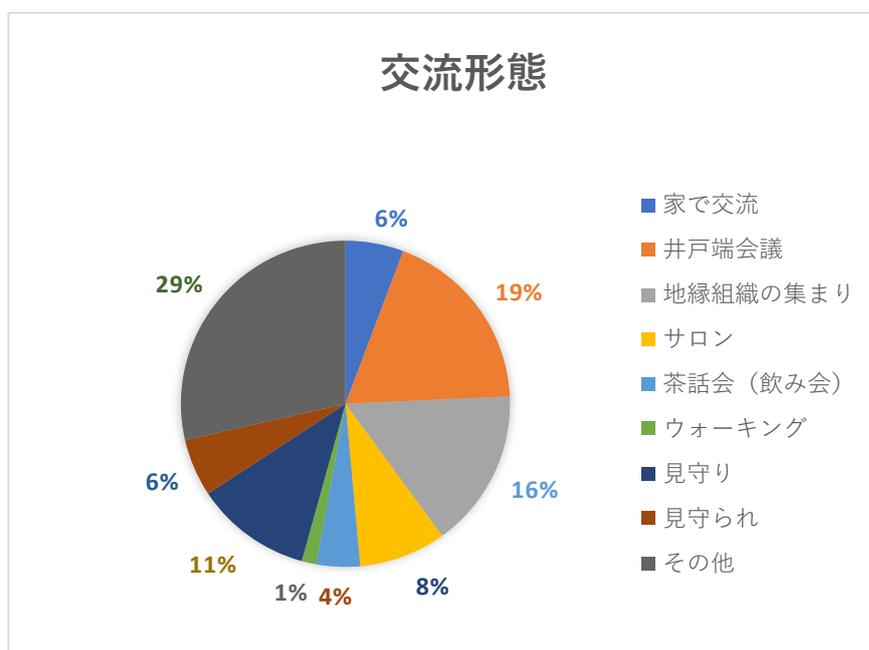
交流をされていないまたは不明が25%と約4分の1の方が住民の交流をしていない。

(交流形態)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
家で交流	0	1	2	1	4
井戸端会議	1	4	5	3	13
囲碁	0	0	0	0	0
将棋	0	0	0	0	0
地縁組織の集まり	0	2	8	1	11
健康体操	0	0	0	0	0
サロン	0	1	3	2	6
茶話会(飲み会)	0	0	2	1	3
ウォーキング	0	1	0	0	1
見守り	1	5	2	0	8
見守られ	1	1	0	2	4
その他	4	5	8	3	20
計	7	20	30	13	70

複数回答可



交流形態は特に決まった集まりでない井戸端会議やその他が多く、近隣の人とのつながりがあることが分かった。

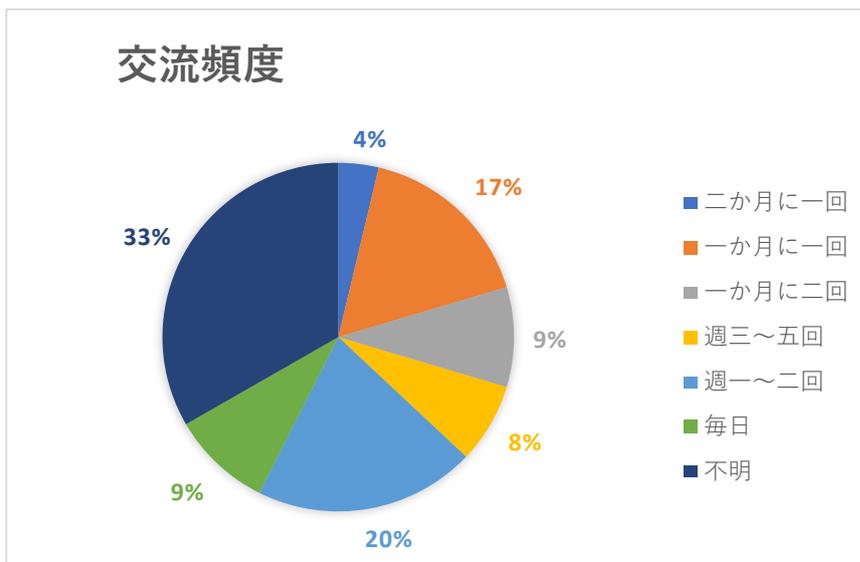
その他は上記以外のもので、特に決まった場所があるわけではないという回答が多かった。

(交流頻度)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
2か月に1回	0	1	1	0	2
1か月に1回	0	4	5	0	9
1か月に2回	0	1	3	1	5
週3～5回	1	0	0	3	4
週1～2回	1	5	1	4	11
毎日	0	3	2	0	5
不明	5	4	3	6	18
計	7	18	15	14	54

地区総人口177人



交流頻度について調査をすると、特に決まってない不明という意見が多く、次いで週1～2回交流するという意見が多かった。

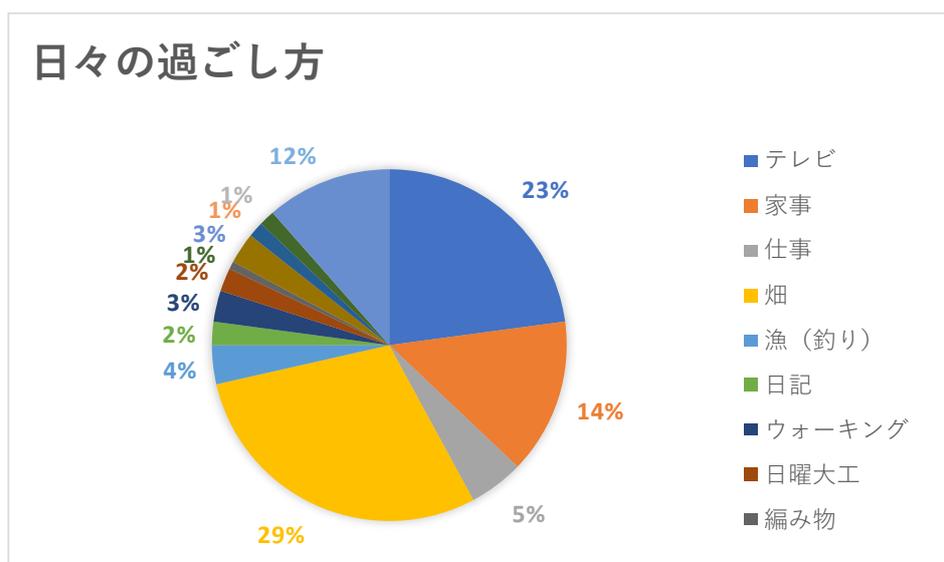
#### 4. 暮らし・生活について

(日々の過ごし方)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
テレビ	2	5	12	13	32
家事	1	5	8	6	20
仕事	1	4	1	1	7
畑	4	15	17	5	41
漁(釣り)	1	3	1	0	5
日記	0	0	2	1	3
ウォーキング	1	1	2	0	4
日曜大工	0	0	2	1	3
カラオケ	0	1	0	0	1
旅行	0	0	0	0	0
編み物	0	0	0	1	1
ゲートボール	0	3	1	0	4
グランドゴルフ	0	1	1	0	2
ペタンク	0	2	0	0	2
健康体操	0	0	0	0	0
その他	0	6	5	5	16
計	10	46	52	33	141

地区総人口177名



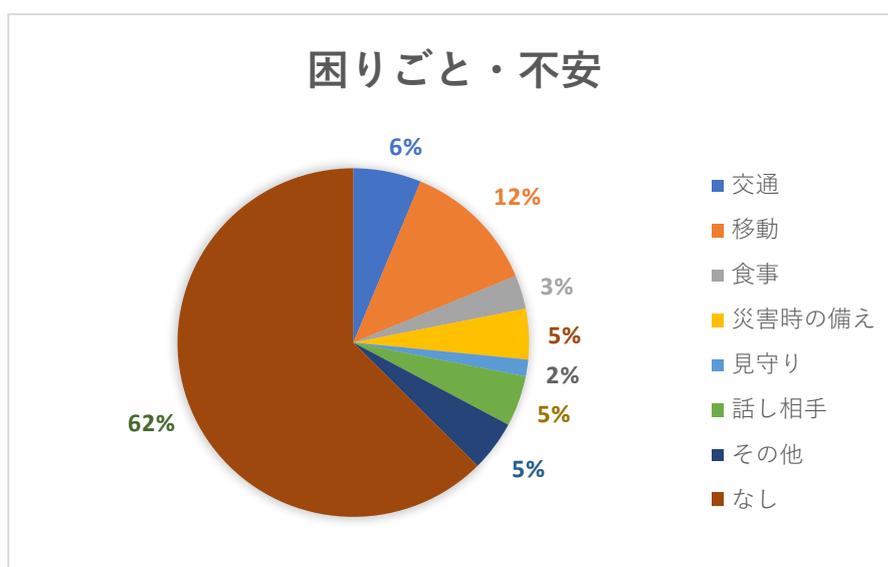
日々の暮らし方を調査すると 29%の人が畑に行くという答え、次いでテレビ鑑賞や家事といった家の中で過ごすことが多いという結果になった。

(困りごと・不安)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
交通	2	0	0	2	4
移動(買い物、通院)	2	2	4	0	8
食事	0	0	1	1	2
掃除	0	0	0	0	0
洗濯	0	0	0	0	0
交流	0	0	0	0	0
災害時の備え	1	1	1	0	3
見守り	1	0	0	0	1
話し相手	0	1	1	1	3
その他	1	1	1	0	3
なし	3	10	16	11	40
計	10	15	24	15	64

地区総人口177人



困りごと、不安についての聞き取りにおいて全体の6割がなしと答えた。次いで移動に不安があると答えが上がった。

具体的な意見として60代の困らない意見として、子供から食料や洋服の宅配がある。車で送迎するなどの意見が上がり、不便な点として新型コロナのせいで市外にいる親族に会えない・どこにも行けないなど、新型コロナ関連の困りごとや台風の時避難所の床が冷たく、高齢者は布団などの持参が難しい人が多いため寝具や簡易ベッドなどの用意をしてほしいとの意見が見られた。

周りの人が手助けしてくれるなど困っていないという意見や、反対に交流が少なくなりさみしいという交流に関する困りごとがある意見も見られた。

続いて80代の意見では、親族が福江にいるため困らない。月に2回は島外の家族から宅配があるので困らないという意見や、ふらふらするのが困る・泥棒がいる・近所の人差し入れをしてくれるがお礼に困るなど不安を感じる意見も見られ、ずっと島にいたい・福江に自分の家があるが久賀が落ち着くなど久賀島に愛着を持っている意見もみられた。

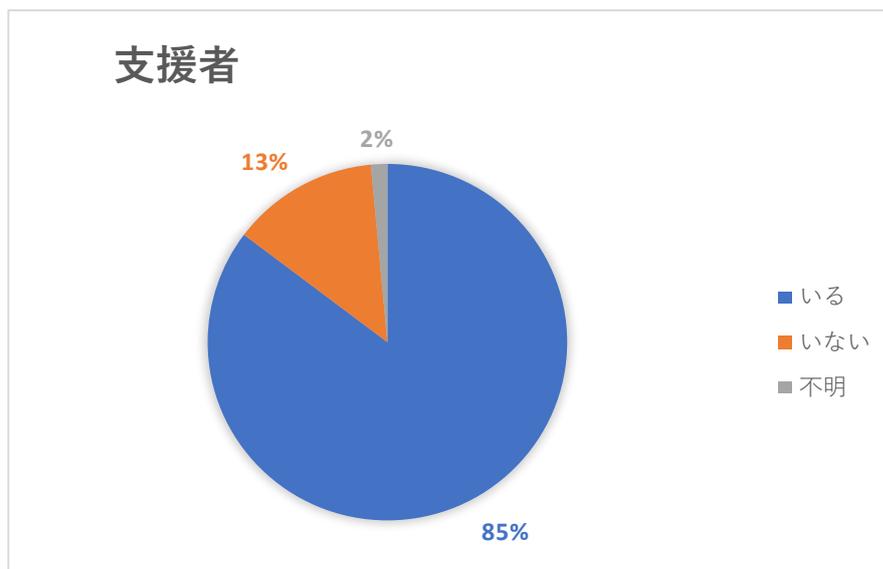
最後に90代の意見は、できることは自分で行っている。近所の人に助けられている。など、自力や近所に助けられているため困らないという意見や、耳が遠くて困っている、台風の時雨戸が閉められなくて困る。など困りごとや不安な意見も見られた。

(支援者)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
いる	6	17	21	14	58
いない	1	5	3	0	9
不明	0	0	1	0	1
計	7	22	25	14	68

地区総人口177人



支援者について調査すると、85%の人が支援者はいると答えた。90代においてはすべての人に支援者がおり、何かしらの支援を受けているとのことであった。

支援者にしてもらっていることについて、買い物・船便での差し入れ・家の掃除・安否確認の電話・病院受診・見守り・調理などが挙げられた。

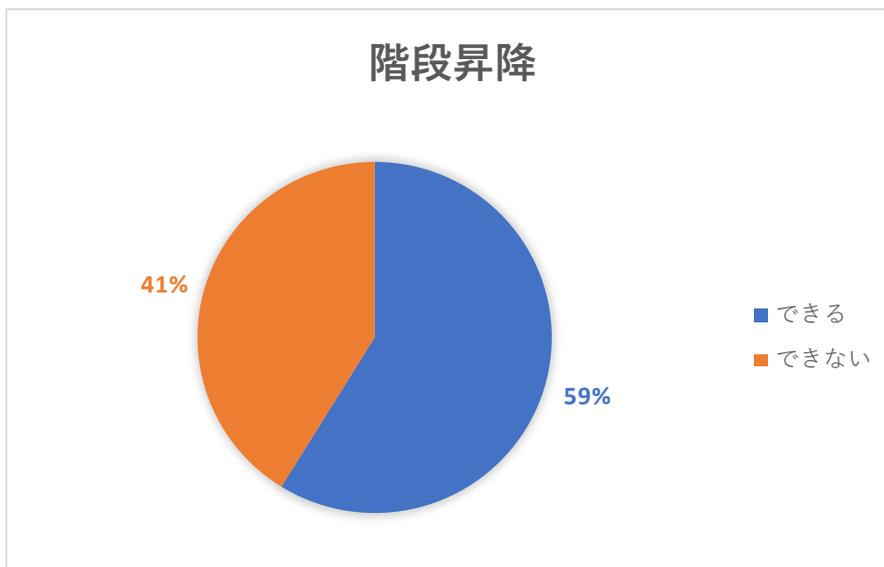
## 5. 体を動かすことについて

(階段昇降)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
できる	6	17	11	6	40
できない	1	5	14	8	28
計	7	22	25	14	68

地区総人口177人



階段昇降に関して、手すりにつかまらずに昇降できるか調査した。

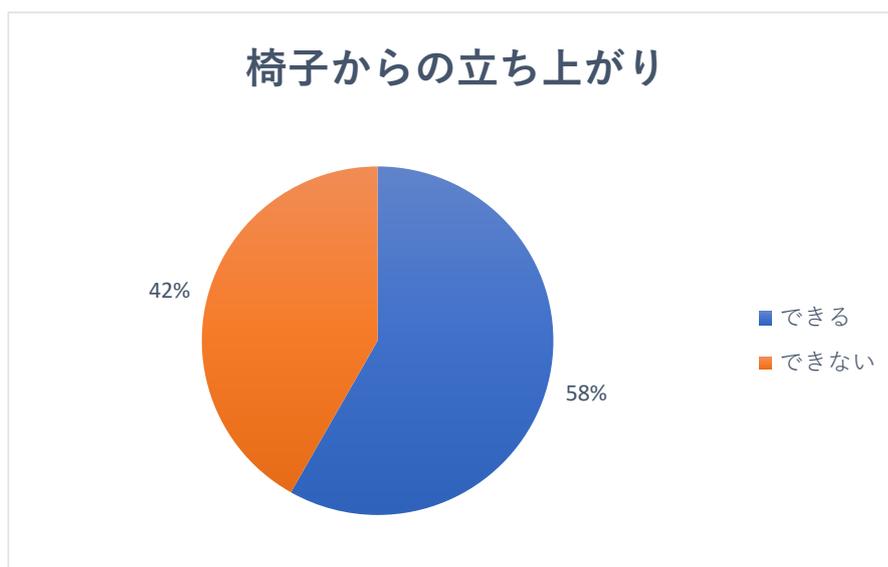
できると答えた人が59%あり、残りの41%に手すりがないと階段を上るのは困難であると答えた。できない人の内約として80代と90代が多い。

(椅子からの立ち上がり)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
できる	6	16	10	7	39
できない	1	5	15	7	28
計	7	21	25	14	67

地区総人口177人



椅子からの立ち上がりに関して、何も捕まらずに椅子から立ち上がることができるか聞き取りを行った。

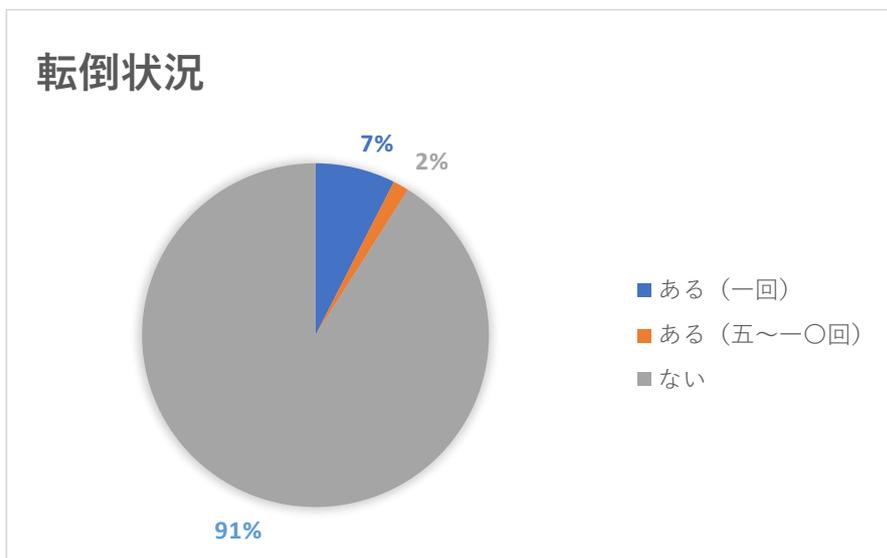
できると答えた人が58%できないと答えた人が42%であった。

(転倒状況)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
ある(1回)	1	0	2	2	5
ある(2~3回)	0	0	0	0	0
ある(5~10回)	0	0	0	1	1
ある(10回以上)	0	0	0	0	0
ない	6	21	23	11	61
計	7	21	25	14	67

地区総人口177人



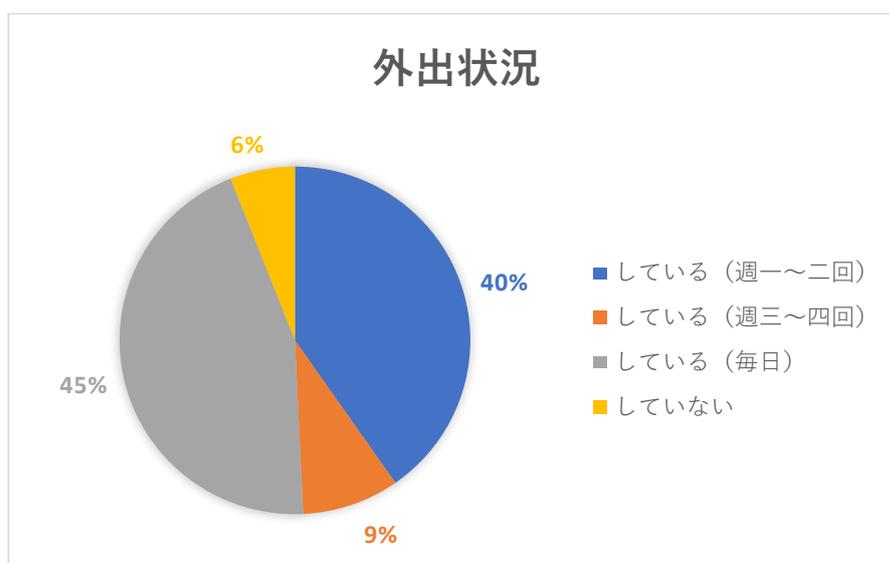
最近1年間で転倒の回数を調査すると、転倒経験はないと答えた人が91%で、ほとんどの人が転倒しないように気を付けているとのことであった。転倒経験がある人でも1回と回答する人がほとんどで5~10回転倒経験があると回答された人も1名いた。

(外出状況)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
している(1~2回)	3	13	5	6	24
している(3~4回)	0	1	2	3	6
している(毎日)	4	6	16	4	26
していない	0	1	2	1	4
計	7	21	25	14	60

地区総人口177人



外出状況について調査すると外出していると答えた人が94%おり、中でも毎日外出しているという人が45%いた。家にこもっている人はほとんどいない状況であった。

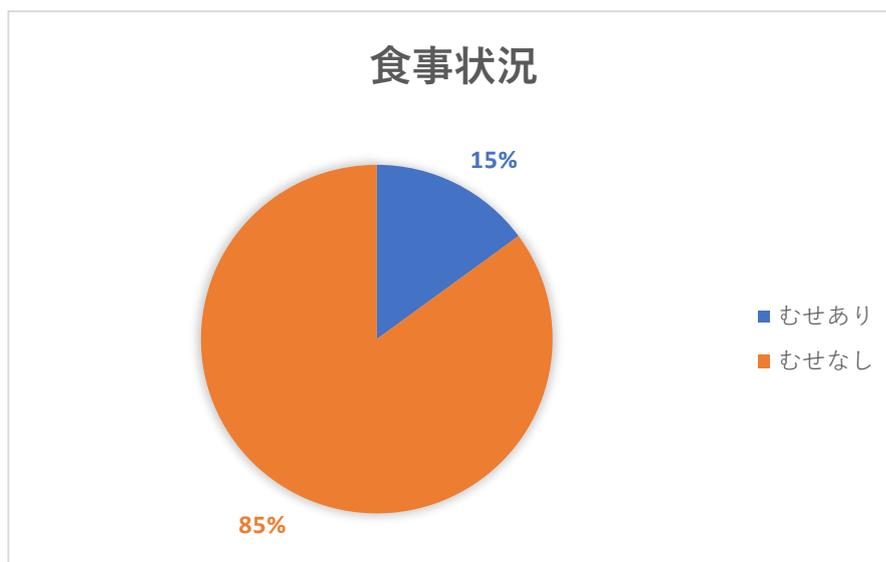
## 6. 食べることについて

(食事状況)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
むせあり	0	3	4	3	10
むせなし	7	18	21	11	57
計	7	21	25	14	67

地区総人口177人



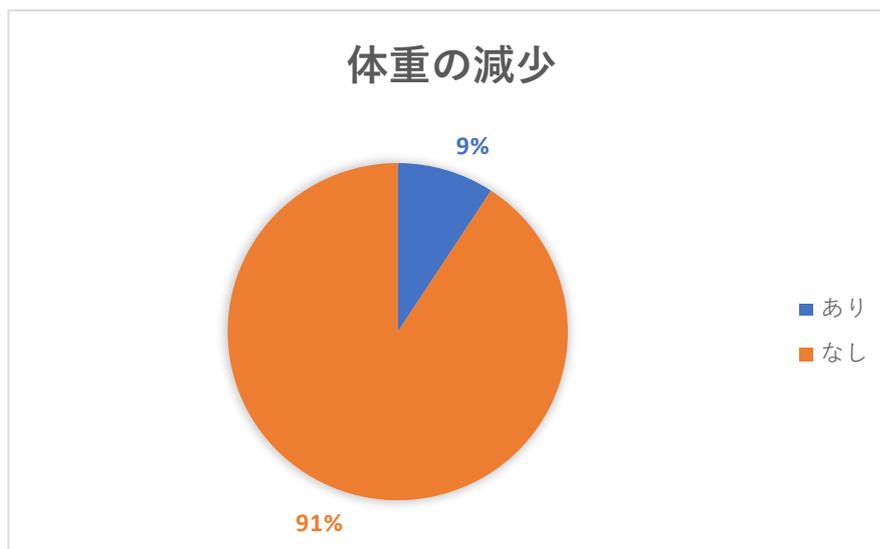
食べることについて聞き取りを行うと、むせなしの人が約85%で食べることに困っている人は15%であった。

(体重の減少)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
あり	1	2	2	1	6
なし	6	19	21	13	59
計	7	21	23	14	65

地区総人口177人



半年間で体重の減少が2～3kgあったと答えた人は9%で、残りの91%の人は体重の変動はなかった。

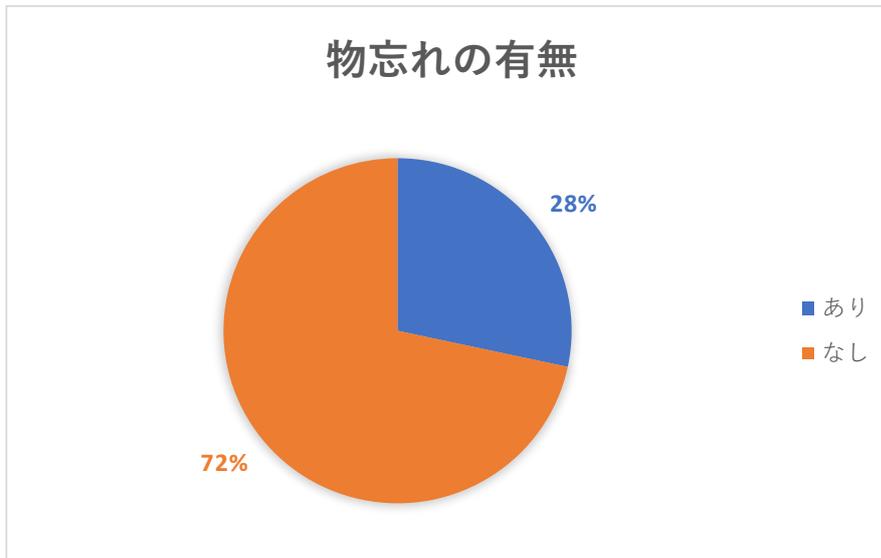
## 6. 毎日の生活について

(物忘れ)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
ある	1	5	7	6	19
ない	6	16	18	8	48
計	7	21	25	14	67

地区総人口177人



物忘れについて調査すると、物忘れがあると答えた人は28%で残りの72%は物忘れは感じないと答えた。

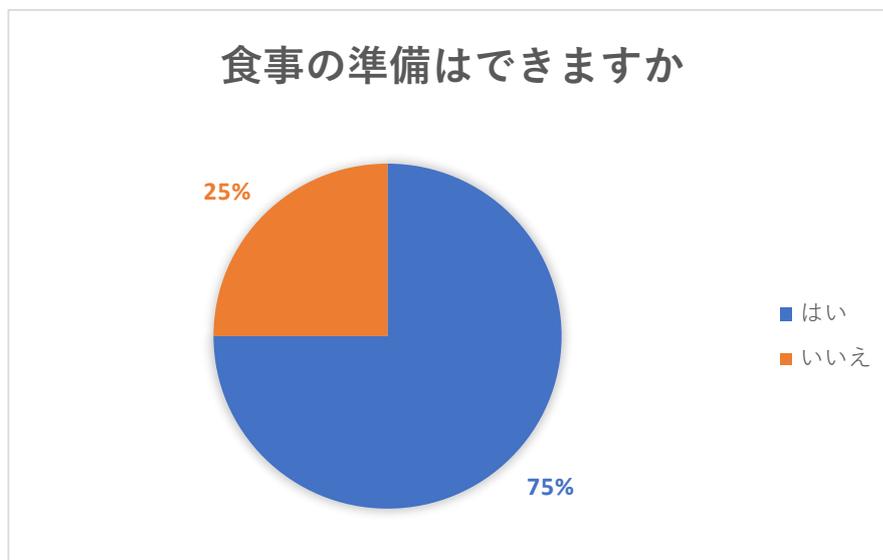
年齢が上がるにつれて物忘れがあると答える人の割合が増加した。

(食事の準備)

(単位:人)

	60代	70代	80代	90代	計
できる	6	20	18	7	51
できない	1	2	7	7	17
計	7	22	25	14	68

地区総人口177人



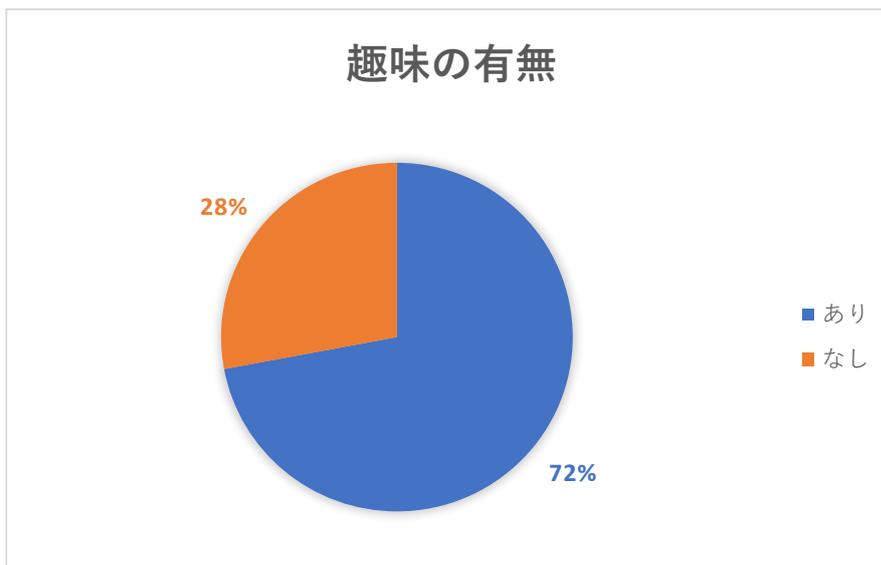
食事の準備について調査するとできると答えた人が75%おり、できないと答えた人は25%いたが、できない人は配偶者や親族が代わりに準備をしているため現在困ってはいないとの意見がほとんどであった。

(趣味)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
ある	5	19	19	6	49
ない	2	3	6	8	19
計	7	22	25	14	68

地区総人口177人



現在趣味があるかとの聞き取りに、あると答えた人が約7割おり90代に関しては無趣味な人が趣味のある人を上回っている。

趣味の内約は60代が畑仕事や釣り、70代が畑・釣り・カラオケ・俳句・買い物・テニス、80代が畑・日曜大工・グラウンドゴルフ・デイサービス・交流・読書・日記、90代がTV鑑賞・畑・花作り・編み物・読書など意見が見られた。

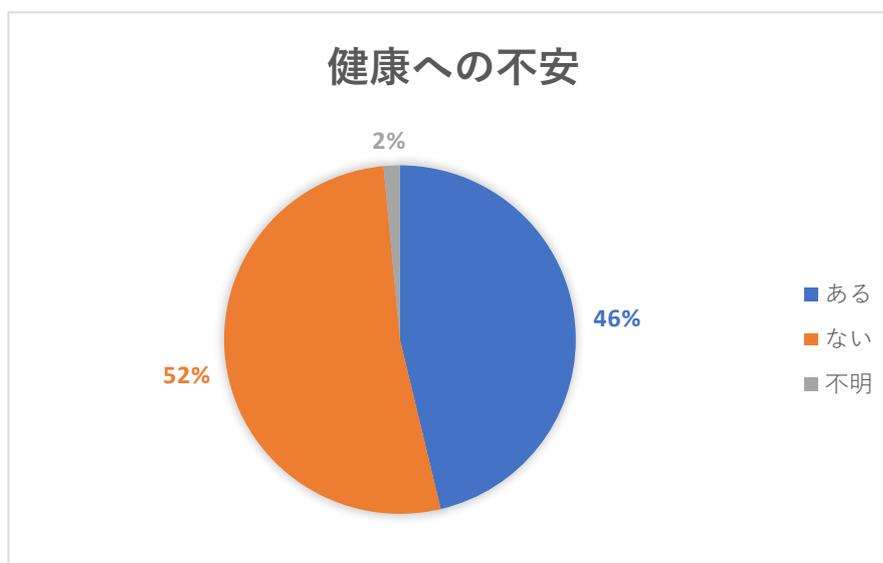
## 7. 健康について

(健康への不安)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
ある	2	14	15	0	31
ない	4	7	10	14	35
不明	1	0	0	0	1
計	7	21	25	14	67

地区総人口177人



健康への不安について聞き取ると、健康へ不安がある人がおよそ半分を占めている。主に挙げられた健康への不安について、糖尿病・ひざの痛み・腰痛・高血圧・手足の震え・圧迫骨折・メニエール病・胃痛・ふらふらする・難聴などが挙げられた。

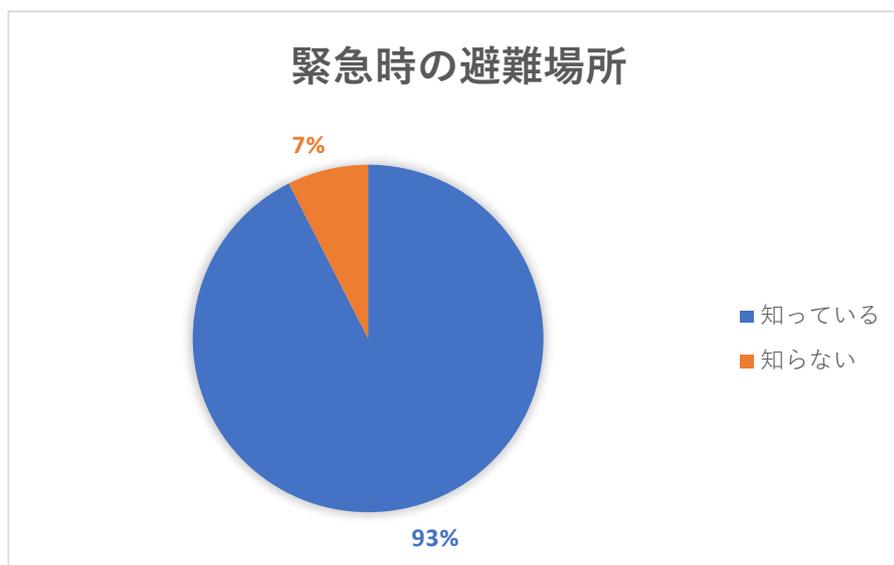
## 8. その他

(緊急時の避難場所)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
知っている	7	21	24	10	62
知らない	0	1	1	3	5
計	7	22	25	13	67

地区総人口177人



台風などの緊急時における避難場所を知っているか聞き取ったところ、知っていると答えた人が93%いた。

知らないと答えた人が7%おり、90代の割合が多かった。

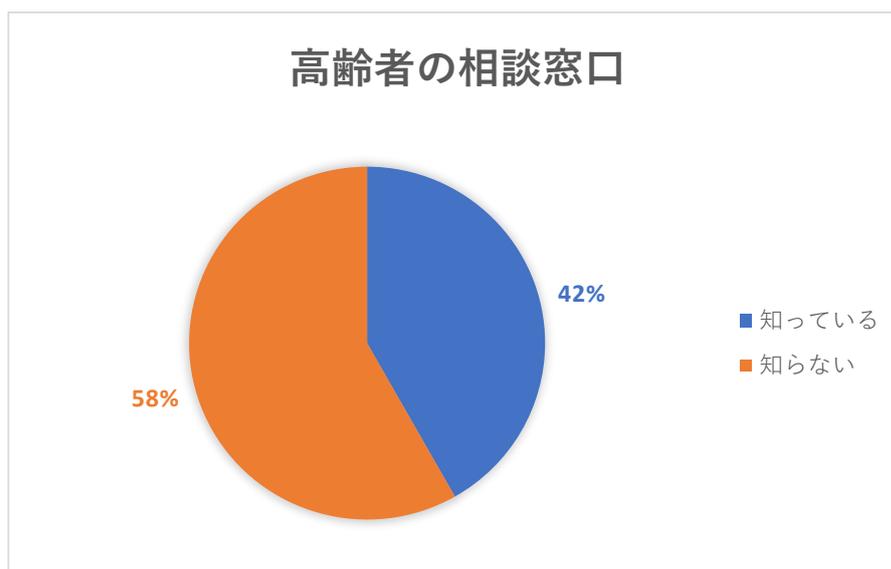
今回の調査は台風の直後の調査となり、避難所について尋ねると初めて避難したという意見も多く、改めて避難所の場所を確認することができたとの意見が多く見られた。

(高齢者の相談窓口)

(単位：人)

	60代	70代	80代	90代	計
知っている	4	13	9	2	28
知らない	3	9	16	11	39
計	7	22	25	13	67

地区総人口177人



高齢者の相談窓口について聞き取りを行い、知っていると答えた人が約 42%、知らないと答えた人が 58%おり、現状高齢者の相談窓口を知っている人のほうが少ない現状があった。調査時に困ったことがあったら相談できる窓口のチラシを渡した。

## その他（自由記述）

最後に、設問にはない自由な意見を聞き取った。

### 60代

- ・介護申請等は骨折したり、体が動かなくなったときに考える。その時は支所やチラシの番号に連絡するが、連絡手段がない。
- ・いずれ久賀デイに行こうと思っている。

### 70代

- ・夫の介護をしており、近くに娘夫婦も住んでいるが、自分に何かあったらと思うと不安になる（腰を痛めているためゆっくり移動・家事をしている）
- ・台風10号の際には福江のホテルへ家族で避難した。
- ・急な坂道をバイクで昇ることがだんだん大変になってきた。
- ・台風10号の際に一人暮らしの高齢者に声をかけ小学校に避難する手伝いを行った。
- ・夫婦で元気に過ごせている。
- ・個々の地区はみんな穏やかで心配事はない。
- ・たまに電話で聞くくらい。
- ・郵便局に行く時くらいしか地域の人に会わない。
- ・週に数日は仕事をしているし、休みの日も畑をしていて忙しく毎日を過ごしている。
- ・猪被害が怖い。
- ・ずっと久賀で暮らしたい。
- ・寝たきりになったらどこに行けばいいのか分からない。

### 80代

- ・避難所には民生委員が連れて行ってくれた。

### 90代

- ・子供が言ったこと、日付、鍋を焦がすなど忘れることがある。
- ・曜日や日にちが分からない、予定が分からない。
- ・台風10号の時は初めて避難した。
- ・近所に頼めば何でもしてくれる。
- ・転ばないように気を付けている。
- ・畑でよく転ぶ、左足が不自由なためふらつとする。
- ・天気の良い日はセニアカーで畑に行く。

(考察)

今回久賀島在住の65歳以上の高齢者69名を対象にニーズ調査を行った。(久賀島在住の高齢者の約38.9%)

調査対象が177名であったが、空き家や不在である家もあり、当初目標としていた60%を大きく下回った。

調査の中で、周りの見守りや手助けなどの支援者は約9割の方がいると答えた。このことより、久賀で生活している人のほとんどは現在何らかの支援があっている。交流に関してもおよそ7割がなんらかの交流をしている。今後支援がない人については久賀の支援マップもしくはリストを作成し、空き家や独居などの情報を共有できるようにしたいが、今回対象者が限られているため様々な機関との共同作業が必要。

困りごとに関しても久賀在住の高齢者に関してはないと答えた人が6割を超え大半の方が現在の生活で満足されている、反面困りごとの内約についてみると80代90代で交通や買い物などの移動が不便という答えが多く、車などの免許を持たないという人が約半数を占めており、高齢者が安心して移動できる支援が必要になると考えられる。

今回台風後に調査したこともあり、避難所に対する意見も見られたため、出張所へ伝え対処するようにしてもらおう。

通院、買い物に関しては半数が久賀島の診療所・商店を利用しており、買い物は福江への通院時船の待ち時間に買い物をする、家族が注文をして宅配してくれているなど高齢者のみで生活される中でも工夫をして生活されている。野菜など、季節の食べ物に関しては半数の人が畑で栽培しており、人によっては余った野菜を近隣に配っているなどの意見も見られ、地域の助け合いができていく地区もあった。通院されていない人が聞き取りの中に5名いた。今回浮き彫りになった5名に関しては健康診断の声掛けなど介入をする。

地区の中には民生委員や町内会長・宅配を請け負っている住人など、地区の情報に詳しい人がおり、連携をすると円滑に見守りができそうであると感じた。

階段昇降や椅子からの立ち上がりができないと答えた人が4割あり、健康への不安がある人が約半数いる。膝痛や腰痛があると答えたひともいる。足の筋力が弱っている人に対しての筋力アップのための運動やウォーキングなどを取り入れて筋力の維持や健康教室などでそれらの不安を和らげていく必要がある。

90代に多い無趣味な人に関して、今後趣味活動に繋がる居場所作りなどを行うことで、引きこもりの解消につなげていく必要がある。

高齢者の相談窓口を知らないという人が6割おり、今回調査に伺った世帯に関しては包括のチラシを渡し、いつでもご相談くださいと伝えたが、会えなかった世帯に対して今後周知していく必要があるため、次年度はじめにチラシ配布などの周知活動が必要であると考える。民生委員定例会でチラシを配布予定。